



CommuniGate Pro プラグインのご案内： Kaspersky AntiVirus

- [Kaspersky AntiVirusプラグインのダウンロード](#)
- [インストール](#)
 - [UNIXシステムでのインストール](#)
 - [MS Windowsシステムでのインストール](#)
- [Kaspersky AntiVirusプラグインの動作テスト](#)
- [Kaspersky AntiVirusプラグインと CommuniGate Proの統合](#)
- [ウイルス定義データベースの更新](#)
- [プラグインの設定](#)
- [必要なライセンスの種類を検討と決定](#)

この文書は、英語版の翻訳です。その目的は、日本のエンジニアの皆様の理解に資することにあります。
翻訳版作成日:2007年3月22日

CommuniGate Systems ソフトウェアライセンス契約 (EULA)

注:CommuniGate Pro を使用された場合、下記のソフトウェアライセンス契約に同意したものとみなされます。

1. ライセンス。ディスクや ROM などの媒体の種類にかかわらずに、当該媒体に保存、記憶されている CommuniGate Pro ソフトウェアおよび CommuniGate Pro に関するマニュアルや説明書(以下、「CommuniGate Pro ソフトウェア」と総称します)はいずれも、米国カリフォルニア法人 CommuniGate Systems (以下、「CGS」と呼びます)からユーザーにライセンス(使用許諾権)供与され、したがって販売されるものではありません。CommuniGate Pro ソフトウェアを使用する場合、その使用は本契約書の条項によって制限されます。ライセンスは、CommuniGate Pro ライセンスキー(以下、「ライセンスキー」と呼びます)の形で提供され、ライセンスキーは数字で構成されます。
 2. 使用の許可と制限。本ライセンス契約により、ユーザーは、単一のライセンスキーセット(複数のライセンスキーのセット)を単一のサーバーコンピュータ(シングプロセッサまたはマルチプロセッサのコンピュータ)上で使用できるようになります。ライセンスキーセットはそれぞれ、単一のインターネットドメイン名(以下、「メインドメイン」と呼びます)について発行されます。したがって、そのインターネットドメイン名が存在し、また、その名前が登録済みでなければなりません。ライセンスキーの発行後は、メインドメインの名前を変更することはできません。発行済みのライセンスキーを使用し、同一の CommuniGate Pro ソフトウェアインスタンス上でメインドメインのほかに任意の数のセカンダリドメインを動作させることができます。CommuniGate Pro ソフトウェアは、適用法規によって許可されている場合を除き、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アSEMBル、修正、貸出、賃貸、貸与は一切禁止されており、CommuniGate Pro ソフトウェアから派生物を作成することもできません。ただし、何らかのコンポーネントについて、マニュアルや説明書で「カスタマイズ可能」と明記されている場合には当該コンポーネントを修正することができます。発行済みのライセンスキー(のセット)は、当該ライセンスキーの発行日(以下、「起算日」と呼びます)において正式にリリース済みであり、かつ最新である CommuniGate Pro ソフトウェアバージョンのほか、当該起算日から 12 カ月の間にリリースされた新バージョンについてのみ有効です(この 12 カ月を「初期保守期間」と呼びます)。発行済みのライセンスキーは、当該ライセンスキーが有効な CommuniGate Pro ソフトウェアの各バージョン以外のバージョンには使用できません。ユーザーが本ライセンス契約のいずれかの条項を遵守しなかった場合、当該ユーザーに与えられている権利は、CGS からの事前の通知なしに失われます。
- 300 ユーザー以上の CommuniGate Pro ライセンスではいずれも下記の契約条件が適用されます。
- CommuniGate Pro プラットフォームのソフトウェアモジュールはすべて正常に機能し、ソフトウェアモジュールにはいずれも「開発ライセンス」が付属しています。この開発ライセンスの下でソフトウェアモジュール(オブションのモジュールを含む)の正規の機能をすべて利用し、ソフトウェアの開発(アプリケーション開発を含む)とテストが可能です。ただし、こうしたソフトウェアモジュールの機能を開発とテスト以外の用途に使用する場合、各モジュールのライセンスを CGS もしくは CGS の正規リセラーから購入しなければなりません。
3. 今後のバージョン。CGS では、時宜に応じて CommuniGate Pro ソフトウェアの新バージョンを開発することがあります。ただし、本ライセンス契約によって、CGS が CommuniGate Pro ソフトウェアの機能の更新や強化を行う義務を負うことはありません。今後、新機能または新コンポーネントを開発するかどうかは CGS が選択でき、当該新機能または新コンポーネントをユーザーが使用する場合、追加のライセンスキーが必要になります。ユーザーは、当該新機能、新コンポーネントを使用しないことを選ぶことができ、使用しない場合、追加のライセンスキーを購入する義務はありません。
 4. 保守(継続使用)。初期保守期間の経過後にリリースされた CommuniGate Pro バージョンを使用する場合、更新ライセンスキー(のセット)が必要です。当該更新ライセンスキーは、月の日付のうち起算日の日付と同じ日、または、当該月の日数が少ないため起算日と同じ日付がないときには当該月の末日に発行が可能です。この日を更新日と呼びます。更新ライセンスキーを購入することにより、当該更新日から 12 カ月以内にリリースされた新バージョンの CommuniGate Pro ソフトウェアを使用する権利が与えられます。当該更新日からさらに 12 カ月が経過し(つまり 2 回目の更新日が到来し)、それ以後にリリースされた新バージョンを使用する場合、さらに新規の更新ライセンスキー(のセット)を購入する必要があります。更新ライセンスキーの価格は、最後の更新日(最初のライセンスキーの場合は起算日)以降の月数にメインテナンスフィーをかけて算出されます。ライセンスキーセットを更新するときには、そのセットに含まれている各ライセンスキーをすべて一括して更新しなければなりません。
 5. 年次ライセンスが必要なコンポーネント。CommuniGate Pro ソフトウェアのコンポーネント(たとえば、サードパーティのプラグインなど)によっては、毎年、ライセンス供与を受けなければならないものもあります。つまり、当該コンポーネントは 12 カ月間だけ使用でき、その後は新規のライセンスキーを購入しなければなりません。

せん。購入により、その後、さらに 12 カ月間にわたって当該コンポーネントを使用できます。当該コンポーネントのライセンスキーは、上記のセクション 4 の規定は適用されず、したがってメンテナンスフィーは不要です。

6. 契約の終了。本ライセンス契約は、期限はなく、上記のセクション 2 に規定されている事由によってのみ終了します。

7. CommuniGate Pro ソフトウェアに関する保証の放棄。ユーザーは、CommuniGate Pro ソフトウェアを自己の危険負担においてのみ使用することを認め、同意するものとします。CommuniGate Pro ソフトウェアは、「現状のまま」でいかなる保証も付与されずに提供され、CGS は、明示または非明示を問わず、また暗黙の保証を含め、もしくはそれに限定されず、当該ソフトウェアの特定用途に関する商品価値または適合性について、保証または条件をいっさい放棄することを表明します。CGS は、CommuniGate Pro ソフトウェアに備えられている機能がユーザーの要求に合致するかどうか、または CommuniGate Pro ソフトウェアが中断せずに動作、もしくはエラーなしで動作するかどうか、または CommuniGate Pro ソフトウェアに欠陥があった場合、その欠陥を修正するかどうかに関しては一切保証しません。CGS はまた、CommuniGate Pro ソフトウェアもしくは当該ソフトウェアに関連するマニュアル・説明書の使用または使用の結果に関して、当該ソフトウェアの動作、またはマニュアル・説明書の内容、または使用の結果が正確であり、精度が高く、もしくは信頼性があることを保証しませんし、その表明も行いません。CGS または CGS の正規の代理人が保証に関して口頭または書面で何らかの情報または助言を提供した場合でも、新たな保証が追加されることはなく、保証の範囲が拡張されることも一切ありません。CommuniGate Pro ソフトウェアに欠陥が存在することが証明された場合でも、当該欠陥に関して必要となるサービス、修理、修正の費用はすべてユーザー（CGS または CGS の正規の代理人ではなく）が負担するものとします。

8. 責任の制限。本ライセンス契約を原因として、または本ライセンス契約に関連して、偶発、特殊、間接、必然の別にかかわらず、何らかの損害が発生した場合、過失を含めいかなる理由でも CGS が当該損害の責任を負うことはありません。司法管轄区域によっては、偶発または必然の損害について責任の制限が認められていないこともあり、その場合には当該責任の制限は適用されないこともあります。損害について CGS に責任が発生したときでも、全損害に対する賠償責任は、本ライセンスの購入価格を超えないものとします。

9. 輸出関連法規。CommuniGate Pro のライセンスキーは、米国の法律および当該ライセンスキーを購入した司法管轄区域の法律で認可されている方法でのみ使用でき、当該法規に反して使用、輸出、再輸出することはできません。特に、またこれに限定されず、次の国または個人に CommuniGate Pro のライセンスキーを輸出または再輸出することはできません。(i) 米国により輸出禁止国として定められている国（または当該国の国民または在住者）、(ii) 合衆国財務省指定国家リストまたは合衆国商務省拒否命令表に指定されている個人。CommuniGate Pro のライセンスキーを使用することにより、ユーザーは自分が上記の国またはリストに該当する国民または在住者ではないこと、または当該国に居住しておらず、その管理下にもないことを表明し、保証することになります。

10. 米国政府機関のエンドユーザー。CommuniGate Pro のライセンスキーが米国政府機関のエンドユーザーに提供される場合、CommuniGate Pro ソフトウェアは、FAR の条項 52.227-19 に規定されている「制限コンピュータソフトウェア」に分類されます。CommuniGate Pro ソフトウェアに対する米国政府機関の権利は、FAR の条項 52.227-19 に規定されています。

11. 管轄法と可分性。いずれかの国のユーザーが CommuniGate Pro ソフトウェアのライセンスキーを購入し、当該国に CGS の関連子会社がある場合、その関連子会社が所在する地域の法律を本ライセンス契約の管轄法とします。それ以外の場合、本ライセンス契約は、連邦法およびカリフォルニア州法によって管轄されるものとします。何らかの理由により、本契約のいずれかの条項または一部が管轄裁判所によって履行不可能と判定されたときでも、それ以外の条項はすべて、その後も完全に効力があり有効であるものとします。

12. 完全な合意。本ライセンス契約は、CommuniGate Pro ソフトウェアの使用に関して、各当事者間の完全で包括的な合意であり、以前または現時点で発生した解釈すべてに優先するものとします。本ライセンス契約の改定または修正は、当該改定または修正が書面で行われ、かつ当該書面に CGS の署名がある場合にのみ拘束力を有するものとします。この EULA を除き、英語の本ライセンス契約と日本語の本ライセンス契約の解釈において何らかの相違が発生した場合、英語の本ライセンス契約の解釈が優先されるものとします。

CommuniGate Systems 社または CommuniGate Pro のロゴ、その他の商標、サービスマーク、およびデザインは、CommuniGate Systems 社または CommuniGate Pro の米国およびその他の国における登録商標または商標です。技術的な正確性を維持するよう常に努力していますが、本書内の情報は予告なしに変更されることがあります。本書の内容の一部または全部を CommuniGate Systems 社からの事前の書面による承諾なしに、複写、写真複写、複製、翻訳、または電子媒体もしくは機械で読み取り可能な形式に変更することを禁じます。

No part of this document can be translated, copied or re-printed without written permission from CommuniGate Systems.

CommuniGate Systems, a Division of Stalker Software Inc.
655 Redwood Highway, #275
Mill Valley, CA 94941 USA

お問い合わせ先:

CommuniGate Systems Japan Tel:046-872-4950 japan@communigate.com

日本の販売代理店:<http://www.communigate.com/content/asia.html>











CommuniGate Systems 本社 <http://www.communigate.com> Tel:800-262-4722

注意: Kaspersky AntiVirus (KAV) プラグインは、CommuniGate Pro サーバーでサポートされているプラットフォーム全部でサポートされているわけではありません。サポートされているのは、いくつかに限られています(下記を参照)。そのため、KAV プラグインのライセンスを購入される場合、使用している CommuniGate Pro サーバープラットフォームで KAV プラグインがサポートされているかどうかを事前に確認してください。

注意: Kaspersky AntiVirus プラグインは、CommuniGate Pro バージョン 5.0.11 以降で使用できます。

Kaspersky AntiVirus プラグインのダウンロード

Kaspersky AntiVirus プラグインは、次のプラットフォーム(オペレーティングシステム)でのみサポートされています。アイコンをクリックしてダウンロードできます。

オペレーティングシステム	CPU	ダウンロード	
		http	ftp
Linux (RedHat 8, ES1-4, SuSE)	Intel		
Solaris 10	Intel		
FreeBSD 5.x, 6.x	Intel		
FreeBSD 4.x	Intel		
Microsoft Windows NT/2000/2003/XP Microsoft Windows 98/ME	Intel		

Kaspersky AntiVirus プラグインの最新バージョンは 1.1 です。

UNIX システムでのインストール

- CGPKAV-プラットフォーム-プロセッサ-バージョン.tar.gz (プラグインアーカイブファイル) をダウンロードします。
- スーパーユーザー (root) でログインします。
- ダウンロードしたアーカイブを /var/CommuniGate/ ディレクトリ (CommuniGate Pro ベースディレクトリ) に移動します。
- `gtar` コマンド (または、`gunzip` コマンドと `tar` コマンド) を使ってアーカイブをアンパックします。
`gunzip CGPKAV-*.tar.gz`
`tar -xf CGPKAV-*.tar`
/var/CommuniGate/ディレクトリの中に CGPKAV ディレクトリが作成されます。
- [Kaspersky AntiVirusプラグインの動作テスト](#)の説明にしたがって、動作テストを行います。

MS Windows でのインストール

- CGPKAV-Win32-Intel.zip (プラグインアーカイブファイル)をダウンロードします。
- ダウンロードしたアーカイブを CommuniGate Pro ベースディレクトリ (C:¥CommuniGate Files¥)に移動します。
- "unzip"ツールを使って、アーカイブをアンパックします。
pkunzip CGPKAV-*.zip
CommuniGate ベースディレクトリの中に CGPKAV ディレクトリが作成されます。
- [Kaspersky AntiVirusプラグインの動作テスト](#)の説明にしたがって、動作テストを行います。

Kaspersky AntiVirus プラグインの動作テスト

UNIX システムの場合、次のようにしてテストします。

- カレントディレクトリを CommuniGate Pro ベースディレクトリに変更します。
`cd /var/CommuniGate`
- 次のようにして、カレントディレクトリから CGPKAV アプリケーションを起動します。
`CGPKAV/CGPKAV`
プラグインのバージョン番号、アンティウイルスエンジンのバージョン番号、カレントのウイルス定義データベースの日付、データベースに登録されているウイルスの数が表示されます。

注意: 必要なOSライブラリが存在しないときには、プラグインが起動しないことがあります。その場合、CGPKAV/CGPKAV-static (静的リンクバージョン、ただし同梱されていないこともあります) を起動してみます。または、不足しているライブラリをダウンロードします。ライブラリは、[ここ](#)からダウンロードできます。

- 次のコマンドを実行します。
`1 FILE CGPKAV/test.msg`
EICAR テストファイルが見つかった、という旨のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されれば、正常に動作していることを示しています。
- Ctrl-D を押して、CGPKAV を終了します。

Windows システムの場合、次のようにしてテストします。

- カレントディレクトリを CommuniGate Pro ベースディレクトリに変更します。
`cd "C:¥CommuniGate Files"`
- カレントディレクトリから、次のようにして CGPKAV.exe アプリケーションを起動します。
`CGPKAV¥CGPKAV.exe`
プラグインのバージョン番号、アンティウイルスエンジンのバージョン番号、カレントのウイルス定義データベースの日付、データベースに登録されているウイルスの数が表示されます。

注意: プラグインが起動しない場合、ドライブ番号を含めた正式の名前を指定してください。たとえば、`"C:¥CommuniGate Files¥CGPKAV¥CGPKAV.exe"` と入力します。

- 次のコマンドを実行します。
`1 FILE CGPKAV¥test.msg`
EICAR テストファイルが見つかった、という旨のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されれば、正常に動作していることを示しています。
- Ctrl-Z を押して、CGPKAV.exe を終了します。

Kaspersky AntiVirus プラグインと CommuniGate Pro の統合

詳細については、CommuniGate Pro マニュアルの [ウイルススキャン\(外部フィルタ\)](#) のセクションを参照してください。

WebAdmin インターフェイスの [Settings] セクションの [General] ページを開きます。続いて、[Helpers] リンクをクリックします。開いたページで、ヘルパー (Kaspersky AntiVirus プラグイン) の設定を行います。

Content Filtering			
<input checked="" type="checkbox"/>	Use Filter:	KAV	
	Log:	Low Level	Program Path: CGPKAV/CGPKAV
	Time-out:	5 minutes	Auto-Restart: minute

注意: Windows の場合、プログラムパス (Program Path) は CGPKAV¥CGPKAV.exe、または、"C:¥CommuniGate Files¥CGPKAV¥CGPKAV.exe" (ドライブ番号も含めたフルパス) と指定します。

続いて、スキャニングルールの設定を行います。下記は、推奨設定です。

Data	Operation	Parameter
Message Size	greater than	2048
---	is	

Action	Parameters
ExternalFilter	KAV

注意: サイズの小さいメッセージ (2K 未満) をスキャンするのは推奨できません。通常、このような小さいメッセージにはウイルスを格納することはできませんので、スキャンの必要はありません。メッセージサイズは、[Message Size] オプションで指定できます (上記では、サイズが 2048 バイトを超えるメッセージをスキャンするという設定にしています)。

注意: Kaspersky AntiVirus プラグインのライセンスを取得していない (未ライセンスのバージョンを使用している) 場合、プラグインによって処理されるメッセージは 1 時間に 1 つに限定されます。そのため、未ライセンスのバージョンで上記のスキャニングルールを使用した場合 (ほぼ全てのメッセージが処理されます)、メール処理フローがブロックされるだけで、実効はありません。未ライセンスのバージョンでウイルス捕捉の動作を見たい場合、スキャニングルールを変更します。たとえば、メッセージのうち、特定の送信者 (たとえば自分) と特定の件名 (指定します) のメッセージだけが外部フィルタ

(Kaspersky AntiVirus プラグイン)によってチェックされるように設定します。設定は、[Data]と[Operation]の各オプションを使って行います。

ウイルス定義データベースの更新

UNIX システムでは、次のようにしてウイルス定義データベースを更新できます。

- update.sh スクリプトを実行します。

Windows システムでは、次のようにしてウイルス定義データベースを更新できます。

- update.bat ファイルを実行します。

UNIX システムでは、cron デーモンを使って上記のスクリプトの自動起動が可能です。操作については、詳しくは UNIX システムのマニュアル('man cron'と'man 5 crontab'の出力)を参照してください。

下記は、推奨 crontab エントリの例です。

```
#minute hour    mday  month  wday  who   command
0    3,9,15,21 *    *    *    mail  /var/CommuniGate/CGPKAV/update.sh
#launch the update at 3am,9am,3pm,9pm every day
```

プラグインの設定

Kaspersky AntiVirusプラグインの起動時、カレントディレクトリにあるCGPKAV.cfgファイル(プラグイン設定ファイル)の内容がKaspersky AntiVirusプラグインによって読み取られます。このファイルのデータ要素のフォーマットについては、<http://www.stalker.com/CommuniGatePro/Data.html>に説明がありますので、そちらをご覧ください。また、データ要素の説明は、CGPKAV.cfgファイルの中にも記述されています。デフォルトのCGPKAV.cfgの内容は、[ここ](#)から見られます。

CGPKAV.cfg ファイルは、Kaspersky AntiVirus プラグインが動作しているときでも安全に表示、編集できます。CGPKAV.cfg ファイルの内容を変更した場合、次の操作を行ってください。

- CommuniGate Pro の WebAdmin インターフェイスを使って Kaspersky AntiVirus プラグインをリスタートします([Auto-Restart]オプション)。
- CGPKAV プロセスに対して'kill -HUP'コマンドを実行します(UNIX の場合)。
- CGPKAV/hup.sig シグナルファイルを作成します。格納するデータは何でもかまいません。このファイルは、Kaspersky AntiVirus プラグインによって自動的に削除され、その後、設定情報が読み込まれます。

必要なライセンスの種類を検討と決定

Kaspersky AntiVirusプラグインの[ライセンス](#)の種類は複数あり、それぞれ、60分あたりに処理できる非ウイルスメッセージの数の上限が異なります。電子メールトラフィック(非ウイルスメッセージの数)が、この上限を超えた場合、Kaspersky AntiVirusプラグインによってCommuniGate Proのキュー処理モジュールの動作が中断(一時停止)されます。また、未ライセンスのバージョンでは、処理可能な非ウイルスメッセージの数は1時間に1つに限定されています。なお、ウイルスに感染しているメッセージは、非ウイルスメッセージとしてはカウントされません。

どのライセンス(処理可能なメッセージ数が異なります)が必要かは、次の手順で確認できます。結果を見て、必要なライセンスを購入してください。

- ダミーのプラグインをPerlスクリプトとして作成します(内容は、下記のとおりです)。
- 実際のプラグインの代わりに、そのPerlスクリプトを実行します。たとえば、`/usr/bin/perl /home/user/license_count.pl`を実行します。
- [Content Filtering]パネルの[Log](ログレベル)オプションを[All Info]に設定します。
- CommuniGate Proのログをチェックし(1時間ごと)、処理の内容を確認します。

```
#!/usr/bin/perl
$|=1;
my $count=0;

while(<STDIN>){
  chomp;
  @line = split(" ");
  if ($line[1] eq "FILE"){ $count++; }
  print $line[0] . " OK " . $count . " messages scanned.\n";
}
```

